

12月



令和元年11月26日

佛教大学附属幼稚園

睦び合って育つ 「僧」

園長 田中典彦

部屋の壁に掛けてある2019年と書かれたカレンダーもあと一枚となり、早くも今年も師走となりました。やがて広沢池の水面から冷たい風が吹いてきて寒い季節がやってきます。何となく身もころもちぢまってしまうように感じるものです。

しかし、どんなに寒い時でも、わたしたちの幼稚園では朝のしあわせがあります。園舎の入り口に勢至丸さまがおられ、白い息をはきながら登園する子どもたちがみんな「勢至丸さま、おはようございます」と、かわいい手を合わせて元気にあいさつをします。

「子どもは風の子」とはよくいったものです。いま園に入ったかと思うとすぐに庭に出て遊びがはじまるのです。見れば裸足で三輪車に乗っている子、鬼ごっこをしている子、いろんな遊びをしています。靴をはいたままでうまく乗れない友だちに「あのね、竹馬は裸足で乗った方がやりやすいよ」なんて教え合ったりする光景も見られます。みんな仲良く遊ぶ姿はとっても微笑ましいものです。寒くて億劫がっている子どもさんでも、友だちからさそわれると外へ飛び出して遊んでいます。

年長にもなると、お姉ちゃんお兄ちゃん意識や、園の仲間という意識が芽生えるのでしょう。年下のお友だちと一緒に遊びながらいろんなことを教える姿も見られます。こうして共に人としての和を身に付けていくのです。

「明るく、正しく、仲良く」という当園の保育目標は、仏教の三宝、「仏・法・僧」からきていることは理解していただいていると思います。「仲良く」は僧に当たっています。日本では僧はお坊さんのことであると勘違いされていますが、本来はインドの言葉でサンガといわれ、仏の教えに従って生きていく人々、仲間のことなのです。中国で漢字訳された時に「僧伽」と音だけが写し取られ(音写)、それを一文字に省略して僧というようになったのです。この集団

には、いろんな人たちが集まっていますが、「諸悪莫作 衆善奉行 自浄其意 是諸仏教」(悪いことはしないで、善いことを進んで行い、自らその心を浄める)というブツダの教え生きる道として心をつなげている者たちでした。ブツダは「多くの聖らかな者たちと会うのは善いことである。かれらと共に住むのはつねに楽しい。心ある人と共に住むのは楽しい」と言っています。互いに悪いことをしてしまった時には反省させあい、善いことをするには励まし合い、ともに仲良く和合しながら心を浄める生き方をしていったのです。ですからサンガはまた「和合衆」とも言われます。睦び合い、語り合いの中で平和な生き方がもたらされるわけです。

子どもたち同士の育ち合いの力も大切なことなのです。時には保育者や保護者の影響力よりも大きいと感じることもあります。少々のもめごとがあっても、やがて仲良くしてゆくのが子どもの世界であらうと思います。

当園では、人と人とのかわりの中で生きてゆくための善い生活習慣を身に付けていただくように、子どもたち同士の仲間遊びも大切だと考えています。どうぞ家庭でも睦び合う時間を多くもっていただきたくことを願います。